

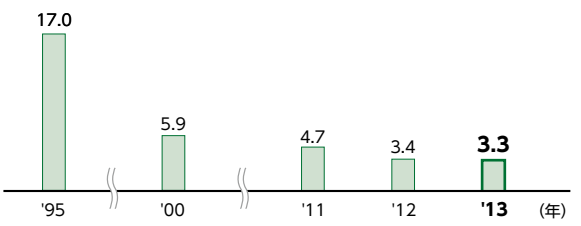
6 CO₂以外の温室効果ガス排出抑制

温室効果ガスの排出は、発電時に発生するCO₂が99%以上を占めますが、その他事業活動に伴って発生するN₂Oなどの温室効果ガスについても排出抑制に努めています。

● 六フッ化硫黄 (SF₆)

SF₆は絶縁性に優れているため電力機器の一部に使用していますが、機器の点検・撤去にあたっては、真空型回収装置の使用を徹底し、大気中への排出を極力抑制しています。

SF₆排出量 単位：万トン-CO₂*



*: SF₆ガス重量をSF₆の温暖化係数 (23,900) を用いて、CO₂の重量に換算。

SF₆ガスの回収実績 (2013年) 単位：トン (カッコ内は、CO₂換算量*)

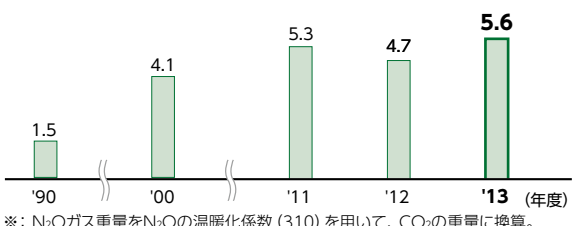
	取扱いガス量	回収ガス量	回収率
点検時	6.79 (16万トン)	6.74 (16万トン)	99%
撤去時	2.42 (6万トン)	2.41 (6万トン)	99%

*: SF₆ガス重量をSF₆の温暖化係数 (23,900) を用いて、CO₂の重量に換算。

● 一酸化二窒素 (N₂O)

主に火力発電所での燃料の燃焼に伴い発生するN₂Oは、発電所の利用率により発生量が変動しますが、火力総合熱効率の向上等に取り組むことにより、排出抑制に努めています。

N₂O排出量 単位：万トン-CO₂*



*: N₂Oガス重量をN₂Oの温暖化係数 (310) を用いて、CO₂の重量に換算。

● メタン (CH₄)

火力発電所での燃料の未燃焼分として排出されるCH₄は、排ガス中の濃度が大気中の濃度以下であるため、実質的な排出はありません。

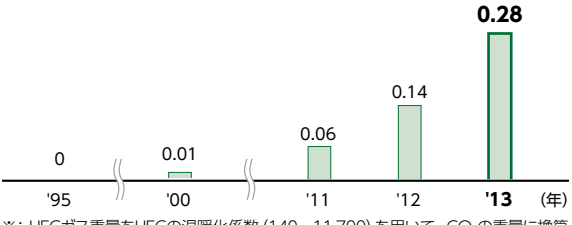
● ハイドロフルオロカーボン (HFC)

2013年度のHFCについては、冷媒等として使用している空調機器等の故障などが原因となり、排出量が大きく増加しましたが、引き続き、機器の設置・修理時の漏洩防止、回収・再利用を徹底していきます。

なお、オゾン層の破壊につながるフロン類 (規制対象フロン) を使用している冷媒機器等については、今後も点検・撤去時におけるフロン回収を徹底するとともに、機器新設時や取替時には、規制対象フロン不使用機器の導入を進めます。

WEB 詳細は九州電力ホームページ 関連・詳細情報 (P2参照) > **オゾン層の保護**

HFC排出量 単位：万トン-CO₂*



*: HFCガス重量をHFCの温暖化係数 (140~11,700) を用いて、CO₂の重量に換算。

● パーフルオロカーボン (PFC)

PFCは一部の変圧器で冷媒及び絶縁体として使用されている例がありますが、当社での使用はありません。

用語集を
ご覧ください

- 温室効果ガス
- N₂O (一酸化二窒素)
- SF₆ (六フッ化硫黄)
- 温暖化係数
- 熱効率
- CH₄ (メタン)
- HFC (ハイドロフルオロカーボン)
- オゾン層
- フロン
- 規制対象フロン
- PFC (パーフルオロカーボン)